

投資的事業（公共事業）の評価調査

部課室名	農地整備課 農村環境整備室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	室長（農村環境整備担当） 鈴木 宏一 (課長補佐兼開発係長 二位孝夫)	内線	4027 (4022)
------	------------------	---------------------	---	----	----------------

事業種目	農村整備 (中山間)	事業名		事業区域	総事業費
		中山間地域総合整備事業 (広域連携型)		レインボー南但	36億円
所在地				着工予定年度	完成予定年度
養父郡 八鹿町、大屋町、関宮町				13	19
事業の目的			事業内容		
3町の農産物や農村空間を地域資源として有効に活用するため、特産物コーナーと情報発信機能を備えた交流施設の用地や交流農道、交流公園を整備し、「活力あふれる交流空間」と「高齢者の生きがいつくりの場」を創出する。併せて、農業生産基盤等を整備し、多面的機能の維持保全を図る。			交流施設の用地整備 2ヶ所 交流農道整備 3路線 L=5.4km 交流公園整備 2ヶ所 鳥獣害防護柵 L=10.5km 農業生産基盤等の整備		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性		大屋町と関宮町は、但馬地域の中でも過疎化・高齢化が進み、耕作放棄率が高く、地域の活力が失われてきている。このため、この地域の中心となる八鹿町と連携し、農産物や農村空間等の地域資源を北近畿豊岡自動車道と連動させた形で活用し、都市住民との交流を深めながら地域の活性化を図ることが必要である。 また、高齢者の生きがいつくりの場として利用するとともに、農業・農村の持続性を高める必要がある。			
(2)有効性・効率性		この事業により、都市住民をこの地域の農村部へ誘う条件整備が進み、交流人口を増やすことが可能となり、地域の活性化につながることも都市住民にいい場を提供することができる。また、高齢者の生きがいつくりの場として活用できるとともに、農業・農村の持つ多面的機能の維持保全を図ることができる。 なお、投資効率は1.46であり、事業効果は十分に期待できる。			
(3)環境適合性		この事業は、農産物や農村空間を活用するための補完的な整備であり、現況を大きく改変しない範囲で交流施設用地整備や交流農道拡幅整備等を行うと同時に、農村景観や環境に配慮した工法を採用する。			
(4)優先性		但馬地域の中でも過疎化・高齢化が高いこの地域を活性化させることは緊急の課題であり、北近畿豊岡自動車道の開通を視野に入れた地域整備を進める必要がある。 また、高齢者の生きがいの場づくりと農業・農村の多面的機能を維持保全していくことは緊急に必要なことである。 さらに、地元住民や関係町からの要望も強い。			
評価の結果	採択	左の理由	3町が連携し、農業や農村などの地域資源を活用し、都市住民との交流を深め、地域活性化を図ることは必要であり、本事業の着手は妥当と判断した。		